

井川地区における特産品のパッケージ開発

静岡文化芸術大学 デザイン学部 佐井ゼミ

指導教員：佐井国夫、黒田宏治

参加学生：會田創士、落合侑美、窪田帆ノ香、福本拓

1 要約

静岡県静岡市葵区に通称「井川」という山あいの自然豊かなまちがある。在来作物の生産や林業が盛んで、大井川鐵道や吊り橋、井川湖渡船など景色を生かした観光コンテンツが多くある。そんな井川で、地域のプロモーション、渡船場リニューアルに伴うデザイン、アルプスの里 VI 計画、井川のらり屋 VI 展開などを行った。

2 研究の目的

地域にデザインという新しい視点を融合させる。そして実際の事業をクライアントとし、商品化など実際の使用を目指した本格的なデザイン作業を行う。

3 研究の内容

現地調査からそれぞれの事業所の抱える問題と、デザインが必要な点を洗い出した。そして、シンボルマークなどの基本デザインの制作やアイテム展開を行った。

4 研究の成果

(1) 当初の計画

現地調査から井川の問題を捉え、実用的なデザイン展開を目指す。

(2) 実際の内容

単に実用的なデザイン展開をするだけでなく、クライアントが今後も使っていくやすいような体系的で耐久力のあるデザイン制作し、クライアントや住民にデザインすることの意義や素晴らしさを伝えた。

(3) 実績・成果と課題

● 「井川地区のプロモーション」會田

井川地区の方に向けて、町おこしを促進するためのプロモーションデザインの提案を行った。まず井川の認知向上、今後行うプロモーションの統一感を目的としたロゴマークを作成した。次に井川での観光中の移動をより楽しんでもらうことを目的にスタンプラリーを提案した。今回は告知のポスター、スタンプラリーカード、景品を制作した。



● 「井川湖渡船リニューアルに伴うデザイン提案」 落合

井川渡船待合所リニューアルに伴い、昨年末には正式にマークが決定した。今回行われた報告会では決定したマークの使い方やロゴタイプ、新しく暖簾や待合所の新しい使い方を提案している。中でも企画として提案した「絵はがきコンテスト」は、先方から「是非、開催したい」という意見をいただき、私の提案した形よりも更に良くなるアイデアをもらうことができた。



● 「アルプスの里 VI 計画」 窪田

アルプスの里をより知ってもらうために、ロゴマークを制作し、それをパッケージなどに取り入れることでアルプスの里の統一感を持たせ集客を目指した。メインカラーを緑にし、井川の自然や、美味しい野菜のイメージにしている。その他にも、暖簾や看板、エプロン、そしてポスターを制作した。ポスターに関しては、「いい味、いい風、いい井川」というキャッチフレーズを入れ、誰の頭にも残りやすいように工夫した。



●「井川のらり屋 VI 展開」 福本

井川のらり屋では現状、ブランドイメージを表すシンボルマークがないことからマークの制作し、その後アイテム展開を目指した。ただし個人の農家さんなので、デザイン展開の際のコストをなるべく抑え、今ある世界観を崩さないよう配慮しなければならない。最終的にシンボルマークやロゴタイプなどの基本デザインを固め、ポスターやクッキーのパッケージ等を制作した。どれも西川さんに気に入ってもらい、今後実際に井川のらり屋のものとして使ってもらうことが決まりつつある。



(4) 今後の改善点や対策

●「井川地区のプロモーション」 會田

プロモーションとして提案したスタンプラリーは地域の収入が安定していないと実現することは難しい。地域で使用できるものを最大限使用し地域の方にプラスになるプロモーションが、今後一時的ではなく長期的に町おこしを行うためには必要だと感じた。

●「井川湖渡船リニューアルに伴うデザイン提案」 落合

予算や権利の問題などの様々な壁を、どう解決していくかが大きな課題になることは明確である。だが現段階ではそのようなことに捉われすぎず、井川に新しいものの考え方を提示することが必要だと考えている。私の提案が、新しい解決策を生み出すことに繋がっていけば本望である。

●「アルプスの里 VI 計画」 窪田

パッケージについては好評であったが、暖簾に対してはもっと賑やかにしたいという意見があがったので、もう少し鮮やかで素敵な暖簾制作をする。パッケージの裏がコスト削減を気にしすぎて寂しいパッケージになってしまったので、裏に情報を入れる。看板は立体的にし、目立つようなものを作る。このようにしてさらにブラッシュアップをし、井川に集客できるようなお店をブランディングしていく必要がある。

● 「井川のらり屋 VI 展開」 福本

使いやすいデザインシステムの構築と、実際に井川のらり屋に今回制作したデザインを使用してもらうために、権利等の手続きを進めなければならない。

5 課題提出者・地域への助言

地域の人のみで作るデザインには、気持ちがかもった暖かさがあるのが良い点であるが、専門的な目で見るともう少し整理が必要な部分がある。ただし、今まで作り上げてきた手作りの良さを全て排除してしまうのではない。それらを土台として少し手を加えるだけで、デザインとして素晴らしいものとなるのだ。デザインを整理するだけで、外の人に対しての情報の伝わり方は変わり、井川に興味を持つ人が少しずつ増えていくだろう。

ぜひ、整理されたデザインの良さを取り入れ、交流人口を増やし、まちの活気を取り戻してほしい。

6 課題提出者・地域からの評価

2023年1月18日(水) 静岡市役所本庁舎会議室において上述研究の最終報告会を行った。参加者は静岡市・井川支所関係者、井川地区事業者等約20名。学生提案に対して、参加者による活発な質疑・意見交換が行われ、渡船ロゴマーク(落合)、プロモーション幟(會田)、のらり屋ポスター(福本)等が採用されることとなり、また数件の具体化が継続検討になるなど、地域デザイン推進の契機ともなった。報告会の様子は翌日の静岡新聞で報道され井川地区デザインの情報発信に寄与できた。

地域おこし協力隊の金原みつみさんより、「井川地区のプロモーションで制作したマークや幟をぜひ井川のイベント等で使っていきたい。」との評価があった。(會田)

静岡市職員上治祐佳子さんらより「最中については当事者に提案したい、暖簾や企画についても実現したい。」との評価があった。(落合)

アルプスの里の松下晶子さんらより、「とても良いパッケージだと思う。このパッケージにすることで全ての商品に対応できる。」との評価があった。(窪田)

井川のらり屋の西川有貴さんからは、全体のデザインを見て、「自分たちももっと頑張らなきゃいけない。」との評価があった。(福本)